

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホーム サンフラワー		
所在地	岩手県宮古市板屋4丁目4番2号		
自己評価作成日	平成23年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200079&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「ISO9001」活用により品質マネジメントを展開し、また内部監査機能活用により業務の継続的改善に努め利用者とその家族の安心と満足の確保に努めている。 ・地元自治会活動への参加や近隣小学校行事への程好い参加や交流など幅広い世代とつながりを持ち、理解と協力を得るきっかけになっている。 ・職員全員がMBOを導入し、自己啓発の実践に努めている。 ・一日のほとんどを過ごすリビングに面した畑やガーデンを四季折々、楽しめるよう工夫を凝らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の昔からの生活スタイルを大切にケアにあたっている様子をうかがい知ることが出来る。本人本位を大切にするための取り組みとして、「昔とった杵柄シート」等の本人のルーツを知ることや、現在の本人の思いを探ることに努め、それを皆で共有することで、利用者の秘めた思いや笑顔を引き出すことに結び付けている。職員体制においても夜間を2人体制にすることで夜間の様々な不安軽減にもつなげている。また、「普通の日常生活」にするため、夜間(夕食後)の入浴も行っており、利用者の安眠に結び付けている。「手作りおやつ」にも拘(こだわり)、「昔、食べた味」の再現に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念をモットーに、職員全員が仕事に入る前に行動規範として声に出して読み上げ理念の共有と実践に努めている。	理念「いたわりとやさしさ」を叶えるための行動を取れるよう声に出している。すべてのケアの根幹に、「いたわりとやさしさ」を意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会や地域の行事にも参加したり、サンフラワー行事への参加も呼びかけ、近隣の子供や小学校、ボランティア等との交流に積極的に取り組んでいる。	事業所主催の「春の市」を年に一回開催している。今年は震災の影響で行うことが出来なかったが、呼び込む(来て頂く)ことのほか、地域に出向くことにも重きを置き、地域の各種行事に出向くようにもしている。沿道の掃除、おしゃべりクラブ、敬老会へ出掛けている。地域の子供たちや小学校等ともお付き合いがあり、合唱を見せていただいたり、ボランティア協力隊(小学生)としてお掃除や、お茶のみに来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の多くの方が参加できる語らいの場である「お喋りクラブ」に出向き、日常の実践経験を活かし、認知症の方の理解や接し方、暮らしぶり等を聴いていただく活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の取り組み内容の報告や情報交換にとどまらず具体的な改善課題を話し合ったり、委員から率直な意見をいただきサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している。1時間位、事業所の取り組み(ISOへの取り組み含めて)について様々な助言を頂く機会となっている。居間の前の窓から災害時避難する際に足元が悪いので避難経路を作ったほうが良いという意見に基づき整備したこと、委員である小学校長のお話から、宮古市の図書館の活用など助言いただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を貴重な機会として、現場の考え方や取り組みを伝えるなどコミュニケーションをとっている。	運営推進会議を中心に意見交換が行われている。震災後に、義歯洗浄剤をいただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて身体拘束の内容とその弊害を認識し、抑圧感のない普通の暮らしの支援に努めている。	利用者のエスケープがあった際に、その経過を皆で話し合った。利用者の外出したい思いを話し合う中で、利用者が安心できる声かけのカード「安心カード」を作成し個々の安心する言葉を共有するよう努めた。居室の窓にも施錠がなく自由な空間を大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学び、利用者本人を中心としたケアを認識し、不適切なケアについてシミュレーションをし議論をする機会を作って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、スタッフレベルでの理解はまだまだである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族と十分に話し合いを行っている。中途改定の際も文書通知や来訪時に説明を行って不安や疑問点に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。日常の中で把握した利用者や家族の意見、また懇談会での家族の意見や要望等に適切に対応している。	利用者のお誕生日には、家族の案も取り入れたイベントを催している。普段会えない兄弟の方会いに行くサプライズなどを行っている。家族もケアチームの一員として関わってもらっている。普段の様子をお伝えするため「サンフラワー便り」を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中や月一回の「業務改善会議・カンファレンス」での意見や提案を集約し、母体全体の会議で討議され運営へつなげている。	業務改善会議でこれからの予定や業務改善策（日常生活での細かなこと等）「前回会議での個別ケアの予防策の評価と見直し」などを踏まえて、法人全体の会議で検討され、より良い運営に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、MBO(目標による管理)で、組織への貢献、個々の能力開発に力を入れている。また自己啓発援助制度を活用し、資格取得に向けサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修と共にOJTを意図的・計画的に行い、スキルチェックにより職員個々の得て不得手を確認し全ての職員が学びの機会を確保できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会沿岸北ブロック研修会を通じて、スキルアップを図っている。また交流会を設け、日頃の仕事の悩みやケアの工夫など情報交換の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで培ってきた生活とは一変してしまう為の不安な気持ちを受け止めたり、本人の声に耳を傾けたりしながら馴染みの関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を重ね本人と家族の思いの違いを理解しながら、家族の立場に立って家族の気持ちを受け止めたり傾聴したりして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族等の話をしっかりと聴いて、その時点で何が必要かを見極め必要に応じたサービスの調整など、出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし時間をかけて関わっていく中で、学ぶ事が多くあり、持ちつ持たれつの相互の存在を支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も本人の生活を共に支援していくケアチームの一員である事を、事あるごとに発信し、より良い介護につなげたい思いを伝え続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに培ってきた関係性を時間をかけてより深く知ろうと努力し、その関係を断ち切らない支援に努めている。	日常的に出会っている人とのつながりを大切にしている。日常会話から職員も利用者の友人の名前を把握していることも多く、関係継続に努めている。妹さんに同窓会へ連れて行ってもらった方など、友人からお手紙が来るようになった方などもある。神社などにも馴染みの場所としてよく行き、ボランティアの方で神社・仏閣のお話をしてくださる方がおり、このことと相まって利用者は大変喜んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や認知レベルや利用者間関係にも配慮しながら、支えあう仲間と共に暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情等でサービスの利用が終了した後も経過を見守ったり、出来る限り相談に応じる姿勢を家族に示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな風に暮していきたいか一人一人の思いや希望・意向を継続的に確認している。意思表示の困難な方については本人の視点に立って思いを感じ取ったり気づいていく努力をしている。	利用者担当制で担当職員を中心に関わりを深めている。利用者の持っている底力を大切にしながら向き合っている。「できること」を見つけて支援していくようにしている。職員自身が自分自身が利用者の気持ちになったらというカードを作り本人本位に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、本人が築いてきた馴染みの暮らしを知る努力や家族からの情報収集等を重ね「昔とった杵柄シート」で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で本人の力を発見していく努力を重ね「私時間の過ごし方」「私の出来る事、できない事シート」で的確な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返しながらサービス担当者会議で話し合い、本人の可能性や生きがいに照らしたプランを作成している。	おおよそ6ヶ月のスパンで計画を見直し更新している。ケアプラン更新前に家族に確認し要望等を聞いている。ケアプランには、利用者本人が話した言葉の記載もあり、(本人の)思いに沿った計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援内容の記憶と気づきや変化などは申し送り、連絡帳で共有しながら必要に応じてケアプランの見直しや改善策を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分たちの力量を把握して現状では何処までの支援ができるかを見極めを行いながら臨機応変な支援に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の声掛けで地元自治会の「おしゃべりクラブ」に参加したり、近隣小学校行事に参加したり理美容院、スーパー、公民館等、地域の力を借りた取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の同意と納得を得て協力病院のかかりつけ医となっているが、状況に応じて本人や家族が希望する専門医の受診にも対応している。	通院は家族にお願いしているが、事業所に対応する場合もある。職員が通院介助に加わらないときには事業所での様子(血圧、生活状況、身体状況、体重)をお渡ししている。健康管理をし、命をお預かりしているので健康に暮らしていただくことを常に気持ちに置いている。法人から月1回看護師が医療相談のためきてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設看護職員による月一回の訪問時に医療面での情報連携をとっている。状態変化に気づいた場合はいち早くかかりつけ医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関担当者との情報交換や退院計画の話し合いを積極的に持ちながら、スムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と重度化した場合の話し合いを年2回の懇談会で設け、自施設の対応力や、対応方針の共有を図り、家族の不安等に対応している。	状態が低下してきており、その先の受け皿を心配している方(本人・家族)も少なくない。特養への情報提供等も行っている。事業所として重度化の取り組みを家族にお話したところ、色々な意見や要望が出た。法人本体の看護師による勉強会も行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた手順や方法の周知徹底や心肺蘇生法、AED使用法の訓練を実施し緊急対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域協力者参加で防災訓練は定期的実施。また、いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るよう昼夜の対応マニュアル、避難経路確保と訓練等、整備の強化に取り組んでいる。	ISOの取り組みの1つとして目標に掲げ取り組んでいる。夜間想定避難訓練も実施し、地域住民2名が参加協力してくださった。地域在住の法人職員とも連携を図ることや、震災後にマニュアルを少し見直し、非常持ち出しリストへ備品を加えたり等の取り組みを行っている。スプリンクラーは今年度中に設置予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	仕事に入る前に理念と7か条の要項を読み上げ意識して敬意を持った言葉遣いと態度で接している。 特に誇りやプライバシーをいかに守るかについては事例検討を行い確認し合っている。	7か条の要項(要点として笑顔、目線を合わせる、叱責しない、ペースに合わせる、若かりし頃を知ろうとする、秘密保持)に基づき、利用者個々と接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉では十分に表現できない方であっても、嫌なものは嫌と全身で発信する反応を注意深くキャッチしながら思いや希望を把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、あくまでも本人が自然なペースで一日を気分よく過ごせるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院では希望のヘアスタイルを本人から伝えて頂き、またいきつけの美容院へ出かけられるよう支援している。その日の服装は本人に決めていただくよう個別の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付け等、一連の作業を共に行い、できばえを誉め合いながら楽しく食卓を囲んでいる。普段から好みを聞き出したり嗜好調査を行い献立に反映している。	女性の利用者の多くは、エプロンをして食事作りに参加している。食材はチラシなどで安いところに職員と共に買い物に行ったり、畑をしているので収穫して味わっている。手作りのおやつにも日々取り組んでおり、「手作りひゅうず」を特に好んでいる。調査時も笑顔の利用者が、おいしい「ひゅうず」を出してくれた。年に2回嗜好調査を行い、好きなものの把握にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設栄養士によるカロリー、栄養バランスに関しての指導やアドバイスを受けながら利用者の体調や嚥下状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄や歯肉、舌ブラッシングを毎食後実施している。またデンタルリンスも取り入れたり医師による口腔ケア指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄習慣を忘れないよう可能な限りトイレでの排泄を支援している。また個々に外出や季節に応じた排泄用品を使い分けている。	夜間はリハビリパンツでも、日中は綿パンツで生活できるよう自立支援に向けて取り組んでいる。パットを利用する方もいる。排泄チェックを行い健康管理にも結び付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃からバランスのよい食事や運動を心がけ、また朝起きぬけの飲水を習慣等、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の生活習慣に合わせ、夕食後から就寝前の入浴支援をしている。またゆず、菖蒲、入浴剤に変化をつけ楽しめるよう努めている。	夜間の入浴を行っている。おおよそ2～3日に1回のペースで入浴している。毎日、入浴していたこともあったが、利用者の体調も考えて現在の入浴頻度となっている。菖蒲湯など変わり風呂も楽しんでいる。利用者個々のバイタルは折れ線グラフに表し、変化が一目で分かるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ身体を動かし、外気に触れる時間を設け、また夜の入浴支援が更なる安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報を把握し、また副作用を予測し副作用で受けている苦痛の度合いを観察して必要に応じてかかりつけ医に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どんな些細なことからも一人一人の得意分野を活かした役割作りをケアプランに盛り込み存分に発揮できる出番をいっぱいしかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や散歩を兼ねた公園や沿道の清掃活動など地域協力者と共に出かけている。また出かけた場所を聞き出し実現できるよう努めている。	近隣の方で、散歩ボランティア(2名)をしてくださる方の協力のもと、外に出る機会を持つようになっている。散歩ではなく、「外の空気を吸いに出ている」という感じである。また、勤労奉仕に出てくると、軍手・ちりとり・ほうきを持って出て行かれる方もある。事業所の目の前に移動図書館がきてくれ、たくさん本を借りている。多いときで70冊ほど借りている。外食にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や神社参拝、外食の際には個々の財布を持って出かけ見守りで利用者の支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月の年賀状や近況報告での伝言を出したり、日常的にお礼や家族バースディの電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移ろいを楽しめるリビングからの眺めに気を配ったり、温湿度計のこまめなチェック、騒音にならない音対策等、快適さに配慮している。	雑然とした感じがなく、すっきりと綺麗になっている。午後の時間に皆で掃除をされており、きれいな共有空間が保たれている。干し柿がつるされていたり、たまねぎの乾燥させたもの(染物に使う予定)などがあり、かつての生活を思わせるような空間造りに配慮されている。窓が大きく、明るく外の様子が良く見え、開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多く、ソファやテーブル席でそれぞれ気の合う同士が集まったり、今談義に花を咲かせて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品や思い出のものが持ちこまれ、本人の安心につながる居室となっている。	居室の備え付けはベッドのみで、そのほかのものは、利用者の持ち込み品となっている。家族の写真、ご主人の写真、アルバム、ご自身のお着物などを持ってきている方がいらっしゃる。お着物は年に4~5回着ていただく場面を作る支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからない利用者のドアには本人の馴染みの目印を工夫したり、日めくりカレンダーで今日が何月何日かを確認できるよう工夫している。		